

第3編 準備書に関する審議経過

第1章 公告・縦覧の概要

準備書の公告・縦覧は以下に示す内容で行った。準備書に対する住民等の意見の提出人数は6人であった。

表 1.1 準備書の公告・縦覧の概要

公 告 日	平成 24 年 10 月 4 日（木）
縦 覧 期 間	平成 24 年 10 月 4 日（木）から平成 24 年 11 月 5 日（月）
縦 覧 場 所	長野県環境部環境政策課、上伊那地方事務所環境課 伊那市役所市民生活部生活環境課 伊那市高遠町総合支所市民生活課 伊那市役所富県支所 伊那市役所美篤支所 上伊那広域連合総務課
意 見 募 集 期 間	平成 24 年 10 月 4 日（木）から平成 24 年 11 月 19 日（月）
意 見 提 出 先	上伊那広域連合環境衛生課
意 見 書 の 提 出 人 数	6 人

第2章 知事の意見及び事業者の見解

準備書に対する知事の意見及び事業者の見解は、以下に示すとおりである。

知事の意見（原文）	上伊那広域連合の見解
全般	
1 事業の実施に当たっては、環境影響評価について引き続き積極的な情報公開を行い、地域住民の安全・安心の確保に努めること。	1 事業の実施にあたっては、引き続き情報公開を積極的に行い、環境に配慮した安全・安心な施設を整備します。
2 評価に当たっては、環境保全に関する目標との整合性が図られているかという観点だけではなく、現在の環境との比較による評価を実施すること。	2 評価にあたっては、環境保全に関する目標との整合性の評価を行うとともに、予測値と現況値の比較による事業の影響の評価を行います。
水象	
3 水象の事後調査計画については、既存の井戸への影響が的確に把握できる場所に、モニタリング用の井戸を設置すること。	3 工事による既存井戸への影響を把握するため、想定対象事業実施区域内の掘削範囲と既存井戸の位置に観測井戸を新設し、モニタリングを行います。
植物・動物	
4 絶滅危惧種の蝶であるミヤマシジミの環境保全措置については、生息域外保全システムにより行うこと。また、保全域の確保という代償だけではなく、食草であるコマツナギの保全による個体群の確保等、最小化による保全対策を検討すること。	4 ミヤマシジミの環境保全措置については、専門家の助言を受けながら、生息域外保全を行います。 導入路の整備に際しては、ミヤマシジミの生息環境の改変量の最小化に努めます。
景観	
5 建物の設計に当たっては、計画地周辺のなだらかで柔らかい曲線の多い景観との調和について考慮すること。	5 施設の形状については、周辺の地形等と調和する形状となるよう今後検討します。

第3章 伊那市長の要望及び事業者の見解

準備書に対する伊那市長の要望及び事業者の見解は、以下に示すとおりである。

要望内容	上伊那広域連合の見解
施設の整備にあたっては、準備書に示す具体的な環境保全措置を的確に講じることで、周辺環境への十分な配慮を願いたい。	準備書に記載した環境保全対策については、知事意見などを勘案して再検討し、これを評価書にまとめます。施設の整備にあたっては、周辺環境に配慮して確実な環境保全対策の実施に努めます。

第4章 準備書の修正内容

環境影響評価準備書に対する環境保全上の見地からの意見を踏まえ、環境影響評価準備書の見直し及び修正を行い、その内容を評価書に反映させた。

なお、準備書の修正内容は、以下に示すとおりである。

項目	修正内容
第4章 調査、予測及び評価 4.1 大気質	<ul style="list-style-type: none"> ・供用時の影響の評価の結果について、環境基準等との比較に加えて予測値と現況値の比較による評価を行った。
4.2 騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・供用時の影響の評価の結果について、環境基準等との比較に加えて予測値と現況値の比較による評価を行った。 ・工事中の工事関係車両の影響及び供用時のごみ収集車両等による影響の予測式について、「道路環境影響評価の技術手法 2007 改訂版」(財)道路環境研究所, 2007 年)に記載されている式に修正した。 ・工事中の建設作業による影響の予測について、建設作業機械の周波数条件を追記した。 ・存在・供用時の施設の稼働による影響の予測式を追記した。また、騒音発生源となる施設内機器類の周波数特性を追記した。
4.3 振動	<ul style="list-style-type: none"> ・供用時の影響の評価の結果について、予測値と現況値の比較による評価を行った。
4.4 低周波音	<ul style="list-style-type: none"> ・低周波音圧レベル (1-80Hz) の測定結果及び予測結果を追加した。 ・G 特性音圧レベルの値については Leq のみの表記とし、L₅については資料編に掲載した。
4.5 悪臭	<ul style="list-style-type: none"> ・施設臭気の漏洩防止対策の類似事例について、施設の規模等の諸元を追加した。
4.7 水象	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の既設井戸位置までの距離の表記について分かりやすい表現に修正した。
4.12 動物	<ul style="list-style-type: none"> ・注目すべき昆虫類のミヤマシジミについて、専門家の助言を受けながら生息域外保全を行うこと、最小化による保全措置を追加し、記載した。 ・注目すべき昆虫類のベニモンマダラに対する保全措置については、代償措置による保全措置とした。 ・魚類の注目種の選定基準について、準備書作成後に公表された「環境省第4次レッドリスト」(2013年2月 環境省報道発表資料)を追加し、注目すべき種の確認を行った。その結果、新たにドジョウ 1種が注目すべき種として追加されたためその確認状況を整理し、影響の予測及び評価を行った。
4.14 景観	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の形状の検討にあたっては、計画地周辺の地形等と調和する建物形状とする環境保全措置を追加した。
第6章 事後調査計画 6.2 事後調査計画	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中の水象の事後調査地点について、想定対象事業実施区域内の地下水位観測位置を既存の井戸への影響が的確に把握できる場所に、モニタリング用の井戸を設置することとした。